

グリーンな栽培体系への転換サポート事業 現地検討会

7月29日（金）、五霞町地域循環型農業実践協議会、当普及センター共催でグリーンな栽培体系への転換サポート事業 現地検討会を有限会社シャリーの現地ほ場(水稲、かんしょ)で開催し、生産者21名及び関係機関28名の合計49名が参加しました。

「グリーンな栽培体系」とは低コスト化と環境負荷軽減の両立を目指した栽培体系のことを指します。当協議会は、有限会社シャリー、五霞町産業課、普及センターの3者で構成され、水稲とかんしょ栽培において、有限会社シャリーで産出されるもみ殻・米ぬか由来のペレット堆肥と省力化技術(ドローン湛水直播、生分解性マルチ)を組み合わせた栽培体系の確立を目指しています。

はじめに、水稲のドローン直播栽培ほ場にて、普及センターからグリーンな栽培体系の背景と目的、試作したペレット堆肥の概要、現在の生育状況について説明しました。ペレット堆肥を施用した試験区の生育は、化成肥料のみの慣行区と同等であり、化学肥料を削減しつつ、良好な生育が確保できました。併せて、ドローンによる水稲湛水直播栽培の省力効果と導入のポイントを説明しました。

次に、かんしょのほ場にて、生分解性マルチ導入による省力効果や費用対効果について説明しました。参加者からは活発に質問が挙がり、関心の高さがうかがえました。

普及センターでは低コスト化と環境負荷軽減の両立（グリーンな栽培体系）に向けた取り組みを支援していきます。



令和4年8月4日 坂東地域農業改良普及センター 山本（成長産業）